

東京都豊島区

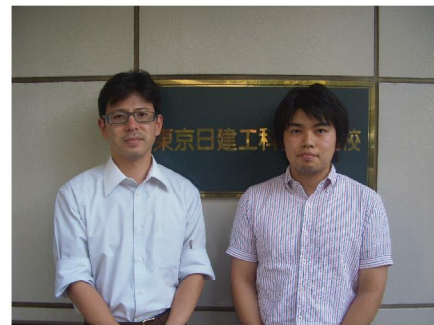
東京日建工科専門学校

～次代の建築界を担うスペシャリストを育てる～

2009年4月に行った第36回建築CAD検定試験では、3級の部で優秀団体賞を受賞された当校。質の高い教育だけでなく、個々の学生の将来の夢に向けたレポートも充実しており、学生にとって素晴らしい環境でありうらやましく感じました。今回は田中先生、高村先生のお二方にお話をうかがいました。



【設置学科】  
建築設計科(昼間部/2年、夜間部2年)  
建築CAD技術科(2年)  
建築設計研究科(1年)



田中 靖也先生 高村 光将先生

貴校のご紹介をお願いします。

本校は校名の「日建」にも表わされるように「建築」を学ぶ学校です。従って目標は明快で「卒業時に2級建築士(国家試験)の受験資格を取得し、そして合格すること」です。ご存知のように建物を設計、建築する際は必ず建築士の資格が必要で、2級試験は1級に次ぎ難易度も高く、狭き門になっています。

合格率についてお聞きして良いですか？

はい。昨年(平成21年度)、本校の2級建築士試験の最終合格率は、建築設計研究科が83%で、建築設計科(2年制)の卒業生も合わせると55%です。全国の合格率が22.8%ですので、それと比較すると非常に高い合格率を達成しており、とても誇らしく思います。

その理由は？

おそらく理由は2つあると思います。1つ目は「学生の強い意志」です。学生と普段接していて、将来「自分で建物を設計してみたい」「世の中に残る建築物をつくりたい」など、しっかりとした夢や目標を持った学生がとても多いと感じます。この強い思いが学生のパワーになっていると思うのです。もう一つはそういった学生をサポートする「講師陣の熱意」と経験に裏打ちされた「学習カリキュラム」ではないでしょうか。

具体的にお聞きしてもよろしいですか？

授業でも当然2級建築士の対策について積極的に取り組むわけですが、それだけで

はどうしても量的に足りないと感じるため、毎日、学生に2級の過去問題を課題として与えています。本試験4教科の各教科から1問づつ合計4問与えます。そうすると卒業までに何と1,000問以上解いていることとなります。これはまさに「継続は力なり」で相当のスキルアップにつながっていると実感しています。

あと、提供する資料もとても質が高く有効的に利用しています。例えば、先ほど目標は「卒業時に2級建築士の受験資格を取得し、そして合格する」といいましたが、当校には他に在学中に2級建築士に合格できる「建築設計研究科」があります。この科ではここ7年間の平均で1次試験の合格率が98%、資格取得率も83%(1次・2次の両合格者)という素晴らしい実績を上げています。

従って講師陣はどこが大切なポイントで、どこが間違いやすいのかなどに熟知しており、それに基づいた資料作りや情報を他の学科にも提供し十分に活かしています。



友達とのコミュニケーションから、創造性豊かなプランができていく様子。

外国籍の方の受入れを積極的にされていますね？

はい。本校の建築CAD技術科は、外国

籍の方が対象の科で、中国や東南アジアからの学生が多く、日本の建築学やCADの操作技術、日本語などを学んでいます。彼らも大変勉強熱心で、2年間という短い期間のなかで可能な限り知識を吸収しようと頑張っています。卒業後は日本の大学に編入学してさらに学問に励んだり、日本の企業に就職して実社会で活躍される方がとても多いです。それだけ彼らは日本と日本の建築について思いが強いのだと感じます。

また、今年卒業する2年生からは、卒業時に2級建築士の受験資格が得られることになり、彼らの勉強意欲もますます高まっています。われわれもことごとくバックアップしていきたいですね。



日本の建築の基礎を真剣に学ぶ、国際色豊かな学生たち

『高校生コンペ』について教えてください。

高校生コンペとは、「全国高校生建築設計コンペティション」のことで、本校が主催し全国の工業高校の生徒から作品を募集して、その製図力やデザイン発想力を審査するものです。

これは建築を学ぶ高校生の、目標に対

Pick up! ～学生の作品紹介～

タイトル/  
「墨田スカイシティ(複合商業施設)」  
建築設計科2年/浅岡宏文さん・池上剛幸さん・久保誠さん



誰もが使えやすく開放的で印象に残ることをコンセプトにデザイン。人が集まり地域の活性化に繋がるよう、ガラス面を多用し様々な角度・場所から東京スカイツリーが見えるように設計されている。

タイトル/  
「PEACEFULL～自然と共存する複合施設～」  
建築設計科2年/石井健太さん・小島良平さん・山本宙さん



自然との共存をコンセプトとしたお台場の複合商業施設。敷地を海岸に見立て、店舗・オープンカフェ・映画館の建設を計画。緑と水の配置を一番に考慮し、水循環の自然の流れ、平和を表している作品。

する取り組みや意識の向上に寄与しているとするもので、実は今年が第1回目となります。(社)全国工業高等学校長協会の後援もいただき、実りある有意義な大会にしたいと意気込んでおります。

一学校が主催するには大変さもありますが、全国の工業高校、先生、生徒さんたちとこのコンペでつながりを得られるということは大変意味のあることだと思っています。

このコンペがきっかけで、高等学校の先生、生徒、そして本校のそれぞれが何かを得られるという魅力あるものに成長させていきたいですね。これからがとても楽しみです。(来年度も開催予定)

資格取得には力をいれておられますね。

資格は、学生の今後の人生に大きな影響を与える大切な要素です。建築界での活躍を目指すのなら、当然いろんな資格を取得することで活躍の場はグンと広がります。なかでも「福祉住環境コーディネーター」と「カラーコーディネーター」は人気があり、例年多くの合格者を出しています。最近では「2級建築施工管理技士検定試験」の学科試験が、在学中に受験できるようになりましたので、是非学生にもチャレンジするよう推奨しています。

多くの資格に挑戦することは、ただ単に資格を取得するだけでなくその取り組みの過程で得る経験や勉強方法を身につけることができるなど、まさにその本人の資産価値を上げることにもなります。建築関連の資格は不思議と無駄になることはなく、必ずその知識はどこかで繋がっていますので、自分自身を高めるため積極的に様々な資格に取り組んでもらいたいですね。



2級建築士の製図試験を目前に、熱心に課題に取り組む学生

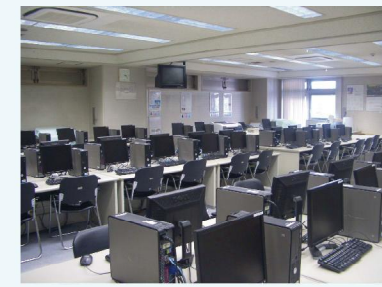
建築CAD検定試験についての印象は？

建築CAD検定試験を導入したのは今から3年ほど前になります。授業で教える内容が試験内容にリンクさせることができ、より効果的に学習できるという観点から導入を決めました。実技試験のみということで、カリキュラムに組み込みやすいといった点も大きかったように思います。

実際の授業では、例えば建築CAD検定の2級の対策をすすめる際、最初の頃はどうしても2次元のものを立体的に捉えることが苦手な学生が多かったため、四角形のキューブを用い、それをわざと平面にすることで立体の概念を理解させたり、感覚的



東京日建工科専門学校のホームページ (http://www.tokyonikken.com/)



CAD実習室は最新の機器が揃い充実。連盟が実施する建築CAD検定試験の一般受験会場としても指定されている。

なものを養ったりして、その後実際の建築図面に活かそうとしました。資格試験を目標にすることで、苦手なものを克服する意識向上にもつながり、授業の内容にも様々な工夫を取り入れるという変化ももたらしているような気がします。

学生さんの反応はどうかですか？

試験が近づくと学生から「課題の図面がほしい」、「もっと教えてほしい」などの積極的な声が増えてきます。そういった要望に応えるには当然授業時間だけでは足りないため、放課後にCAD実習室を開放したりして意欲的に取り組んでいます。これは、この検定試験を導入する前にはなかった光景でとてもうれしく思いますし、惜しみなくサポートをしてあげたいと心から感じますね。

就職状況はどうかですか？

当校は東京に立地しているということもあり、求人倍率もまだまだ高く地方の学生さんと比べ恵まれている部分はありますね。おかげさまで、本人の努力と学校のバックアップの成果が実りここ数年は100%の就職率を達成しています。求人倍率が高いだけではなく当然就職活動に必要なサポートは万全に行っています。さらに一昨年より本校独自のSPI試験の対策を始めました。演習問題に取り組むだけでなく本番さながらのSPI模擬試験も導入し、本試験に向けて有効に備えています。また情報力という部分でも学生を大きくサポートしています。全国の企業から送られる膨大な求人情報を情報センターでリアルタイムに分析・発信し、全国の日建グループ校がその情報を共有できるシステムです。このようにハード、ソフトの両面から学生の就職活動を大きくバックアップしています。



就職指導は、学生一人ひとりにきちんと目が届くクラス担任制。

今後の取り組みや展望について教えてください。

今まで本校では、建築設計科について「卒業後に2級建築士に合格する」、あるいは「卒業後に本校の建築設計研究科に入学して在学中に2級建築士に合格する」というスタイルが軌道に乗りほぼ確立して参りました。

これからは、先に述べましたように外国籍の学生を対象とした「建築CAD技術科」に対して卒業後の2級建築士の受験資格が与えられたことで、まずは早く合格者第1号を生み出したいという思いで一杯です。日本に来て日本語を学び、日本語での授業を受け、日本の国家試験に挑戦する。これはたやすいことでは決まありません。そんな彼らが、2級建築士資格を手にするということは、相当の意味があるはずで、是非、彼らには、この道を切り開きこれから入学してくる彼らの後輩たちの大きな励みとなるよう頑張ってもらいたいと思います。もちろんわれわれも学校としても全力で応援していきます。

あともう一つ、「建築」にかかわる多くの人々との「輪」を育んでいきたいですね。例えば、本校を卒業して活躍される皆さん、全国の工業高校の皆さん、企業の皆さん、近隣の専門学校の皆さん…。こういった方々との交流は、建築の教育に携わる本校がすすむべき未来について、あらゆる情報やエネルギーを与えてくれるはずです。「作品展」や「高校生コンペ」はまさにその第一歩でもあります。「柔らかな感性」「あふれる好奇心」「斬新な発想」、そういったものの融合がこれからの新しい教育としても求められているような気がしますし、少しでも本校がそれに貢献できたら本当に素晴らしいことと思います。

あとがき

お話をうかがっていて、この学校は「学生に〇〇をさせよう」ではなく、「学校は学生に何ができるのか」を考えている、そういう印象を持ちました。過去、現在から未来にわたるこの普遍的な考えと行動力が、この学校の「底力」としてさらに輝かしい実績を築き上げていかれることでしょう。